

## 『連盟 70 年の歩みから性差別の歴史を悔い改める』 声明

日本バプテスト連盟は、1947 年 4 月に結成してから 70 年を迎えました。

私たちはこの歴史の中で、連盟として組織的・構造的に性差別に加担・容認してきたこと、そして、それを長い間、意識できず、放置してきてしまったことを、神のみ前に明らかに致します。

私たちは、私たちの間に様々な違いがあることを、イエス・キリストの福音ゆえに喜び、尊びます（ガラテヤ 3：28）。しかし、その違いに優劣をつけ、力の差として利用し、支配・被支配の関係性を生じさせる時、あらゆる差別が起こります。差別は、その人らしさを否定し人権を侵害し、人の「いのち」を傷つけ殺します。

性差別には、ジェンダーやセクシュアリティに関するもの、そして性暴力などがあります。とりわけ私たちは、ジェンダーに基づく性差別を、教会形成や伝道者養成等、連盟総体としての施策に関わる部分において公然と行ってきました。

私たちは、このような性差別を生んできた構造を省み、悔い改めることを通して、私たちの内に潜在するあらゆる差別についても気づき、学び、悔い改め、今後も決して容認しないことへの決意を新たにします。

私たち日本バプテスト連盟は、イエス・キリストの福音による解放を世に伝えるとともに、従来日本の様々な価値観と批判的に向き合い、相対化することに努めてきました。それにもかかわらず、私たちは、連盟内における男性中心の構造については、批判的考察のないままに保持し続けました。むしろ、それを利用してきたとさえ言えます。

この構造は、キリスト教会が長らく受け継いできた信仰理解や教会理解、聖書解釈にも内在し、私たちはそれらの影響も強く受けてきました。そして、この信仰や教会理解、聖書解釈は、米国南部バプテスト連盟の「2000 年信仰宣言」に如実に表れました。

女性は男性の権威と主導権を侵さない限り教会で教えることができるといった一元的な聖書解釈のもと、私たちは女性たちを講壇から、あるいは意思決定機関から排除しました。教会や連盟諸機関における男性中心の構造が待遇や雇用形態、職務内容における男女の明らかな差を生み出し、それを見過ごしにしてきました。

このような性差別の構造のもとで教育を行い、女性が男性の後ろに下がる態度を美徳とし、幼児教育や音楽などの働きこそが女性が活躍できる領域と見なす意識を強化してきました。さらに台所での奉仕などを女性に限定することが多くありました。これらの価値観を受け入れる、受け入れないということで、女性たちの間に様々な分断や不要な軋轢を生みだしました。

とくに神学教育の場、あるいは牧師招聘の場での性差別は顕著でした。本人や教会の召命理解とは無関係に、多くの女性献身者の選択肢を女性という属性を理由に狭めました。

こうした組織的・構造的な性差別は、「すべての信徒はひとしく福音宣教にたずさわる」（1979 年日本バプテスト連盟信仰宣言）というバプテスト教会の理念とは、相容れないものです。しかし私たちは、痛みを負った当事者が勇気をもって声を上げるに至るまで、否、声が上がってもなおしばらくの間、信仰的理念と実際の教会形成や連盟施策との間の齟齬に無頓着でした。

このような構造を反省し、改めることに鈍感であり、無責任であり続けました。それどころか痛んでいる方がたに赦しや表面的な和解を強いてきました。

多くの出会い、学びや気づきを経て様々な取り組みがなされていますが、組織の構造や個人個人の意識、生活に根付いた性差別は、簡単に払拭できるものではありません。現在の社会の状況は、その体制維持のために都合のいい差別を再び強める傾向があります。それゆえ私たちは、常に間違いを起し得る存在だという自己認識を持ち、他者を自分よりも優れたものとして向き合う姿勢をもって、主の導きのもと、今ここから前進したいと願います。

私たちは、私たちが差別し、排除し、嘲笑さえしてきた方がたに、今心から謝罪します。私たちがイエス・キリストの福音の要請に背を向け、教会や社会に温存されてきた性差別に批判的に向かいあってこなかった故に、今この声明文と一緒に読む可能性を奪われた方がたに、心を痛めつつ謝罪します。差別によって傷ついてきた方がたの声に真摯に聴くことこそ、真の和解への道につながると信じます。

私たちは、長きにわたる連盟の歩みの中に、性差別の歴史が大きく根深く横たわっていたことを改めて神に告白し、一人ひとりが、教会が、また連盟という組織自体が、神のみ前に新たな存在として立つことを宣言します。私たちが、十字架と復活の主から学び、その福音に真に生かされるものとなるように、主の助けを祈ります。

2017年11月17日  
日本バプテスト連盟第63回定期総会